



〒892-0841
鹿兒島市照国町13-42
カトリック鹿兒島司教区
電話099 (226) 5100
振込口座 02030-2-8359
編集発行 教区広報部
1部60円年間千共1100円



司教の手紙

「聖家族の現実」 ―クリスマスに寄せて―

鹿児島教区司教 中野 裕明

教区の皆さま、お元気で
しょうか。今回は主イエス
の降誕祭に因み、「聖家族
の現実」についてお話しし
ます。

聖家族とは、神が人間と
なつて私たちの一人になつ
てくださり、私たち家族の
苦勞を共有してくださつた
最初の家族のことです。そ
の家族とは、ヨゼフとマリ
アと幼子イエスのことと
す。

さて、幼子イエスの誕生
物語はマタイ福音書とルカ
福音書に記載されていま
す。教会学校やカトリック
幼稚園でこの時期に演じら
れるいわゆる「聖劇」はル
カ福音書2章1〜20節とマ
タイ福音書2章1〜12節を
組み合わせたものです。主
な登場人物は、大天使、マ
リア、羊飼、東方からの
3人の博士、それにヨゼフ
です。今回、私は洗礼者
ヨハネの父親ザカリヤとマ
リアの許嫁だったヨゼフの
ことについてお話ししたい
と思います。

ザカリヤとマリア
ルカ福音書は、イエスの
誕生の前に洗礼者ヨハネの
誕生の次第を平行して記述

しています。次の通りで
す。

「洗礼者ヨハネの誕生の
予告」(ルカ1・5〜
25)、「イエス誕生の予
告」(ルカ1・26〜38)、「
洗礼者ヨハネの誕生」
(ルカ1・57〜66)、「イ
エスの誕生」(ルカ2・1
〜20)です。これらの箇所
は、クリスマスの1週間前
から週日のミサの朗読箇所
で読まれます。

内容をお話しします。ル
カ福音書は基本的に時間軸
に従つて記述されています
が、イエスの誕生について
は、時代の変化について読
者の注意を喚起していま
す。つまり、旧約時代から
新約時代への接点として捉
えています。

洗礼者ヨハネは旧約時代
の最後の預言者で、イエス
は新しい時代の幕開けであ
る、という意味です。洗礼
者ヨハネの父親ザカリヤは
神殿に仕える祭司でした。
天使は彼の祭司の務めの最
中に妻エリザベトの懐妊を
告げます。ところが、ザカ
リアは、妻は老齢のために
妊娠は無理であることを理
由に天使の言葉を信じませ
んでした。しかし、実際に

赤子が生まれたら、天使の
言いつけに従い、その子に
ヨハネという名を授け、神
を称えました。(ルカ1・
57〜79参照)

このエピソードは、旧約
時代の幸せの価値観を表現
しています。すなわち、ユ
ダヤ教の教えによると家族
の最大の幸せは、家族が
子々孫々栄えることとし
た。これは神様の約束に基
づくものでした。

「神は彼らを祝福して言
われた、『産めよ、増え
よ、地に満ちて地を従わせ
よ。』」(創世記1・28)

祭司伝承とされるこの文章
を祭司であるザカリヤはい
つも心に留めていたと思わ
れます。しかし、如何せん、
妻エリザベトは年老いて
いて、その願いは潰えそ
うになつていた辛い時期で
した。そんな中、神の恵み
によつて得た子どもの誕生
に彼が歓喜したのは同然で
した。

一方、マリアはナザレと
いう小さな町に住む少女で
した。ナザレの町は山の
腹にあり、人々は、岩をく
り抜いた洞窟を住まいとし
ていました。エルサレムの
神殿に仕えるザカリヤとは

雲泥の差があります。
マリアは、10代半ばでし
たがヨゼフという許嫁がい
ました。そのマリアに大天
使が現れ、聖霊によつてあ
なたは男の子を産むので、
その子にイエスと名付け、
立派に育てなさい、と告げ
ます。マリアはまだ夫婦生
活をしていないのにどうし
てそんなことが起こるのか
と尋ねたところ、親戚エリ
ザベトも老人ながら、妊娠
したことを告げ、「神には
できないことは何一つな
い」(ルカ1・37)との大
天使の言葉を信じて、マリ
アは受諾します。つまりこ
の時にイエスを懐妊しま
す。

二つの価値観

イエスの誕生を境に人類
の歴史に新しい価値観が芽
生えたと言えます。それ
は、ザカリヤの家族とヨセ
フの家族の目指す価値観の
違いです。つまり前者は、
家族の繁栄と地上の国の繁
栄を求める価値観であるの
に對して、後者のそれは、
この世の常識とは異なる、
神の働きかけに懸命に応答
していく生き方、であると
言えます。

マリアとヨゼフは、社会
の底辺で生活し、この世の
圧政に押しつぶされそうに
なりながらも、家族の絆を
大切にし、神から委ねられ
た子どもを保護し、息子イ
エスが成人しご自分で宣教
活動を始める時まで、立派
に育て上げました。

この夫婦の、全能の父な
る神への全幅の信頼ゆえ
に、教会は二人を聖人と仰
ぎその徳に倣うように信者
の私たちに勧めているので
す。

クリスマスという物差しを大切に

中野司教が福者レオ七右衛門殉教祭で説教

薩摩の殉教者として称え
られる福者レオ税所七右衛
門の殉教を記念し、その熱
い信仰に倣う目的で実施さ
す。

「イエス・キリストの誕
生の次第は、次のようであ
った。母マリアはヨゼフと
婚約していたが、二人が一
緒になる前に、聖霊によつ
て身ごもっていることが明
らかになった。夫ヨゼフは
正しい人だったので、マリ
アのことを表ざたにするの
を望まず、ひそかに縁を切
ろうとした。このように考
えていると、主の天使が夢
に現れて言った。『ダビデ
の子ヨゼフ、恐れず妻マリ
アを迎え入れなさい。マリ
アの胎の子は聖霊によつて
宿つたのである。マリアは
男の子を産む。その子をイ



裁かれ、石殺しの刑に遭つ
てしまう。
そのような苦悩の中、ヨ
ゼフの決断は、天使の勧告
に従つて、マリアを妻とし
て迎え入れることでした。
つまりお腹の子どもを認知
したわけですね。マリアと
もにお腹の子どもも守つた
ことになりました。つまりヨ
ゼフの家族を守つたので
す。
マタイ福音書には家族を
守る父親ヨゼフの働きがも
う一つ記されています。
「占星術の学者たちが帰
つて行くと、主の天使が夢
でヨゼフに現れて言った。
『起きて、子どもとその母
親を連れて、エジプトに逃
げ、私が告げるまで、そこ
にとどまっていなさい。ヘ
ロデがこの子を探し出して
殺そうとしている。』ヨセ
フは起きて、夜のうちに幼
子とその母親を連れてエジ
プトへ去り、ヘロデが死ぬ
までそこにいた。」(マタ
イ2・13〜14)

教区人事

▼貴島丈弥神父
イタリア留学を終え、10
月末に帰国した貴島丈弥神
父は、11月1日付でザビエ
ル教会助任司祭。

ヨハネ福音書の朗読後
に説教した中野司教は、
創世記の蛇の誘惑から
「私たちはキリストとい
う物差しでもって善悪を
判断することが大切。聖
書に親しみ、頂いたこの
物差しを失わない道を選
び殉教したレオ七右衛門
に倣おう」とメッセージ
を送った。
説教後は堅信式があり
谷山教会所属の女性がそ
の恵みに浴した。

第三部 教会の多様性と一致のために生きる

VI. 教会自体が求める多様性と一致

(1) 第二バチカン公会議の諸文書に見られる多様性と一致に関する用語

第二バチカン公会議が教会の多様性と一致に関して、配慮して使用した言語があります。例えば、次のような言葉が挙げられます。「共同体、交わり」、「奉仕」、「対話」、「団体、団体性」、「多様性、聖職位階の多様性」、「補完性の原理」、「部分教会と全教会・普遍教会」などです。

また特に統治に伴う権限に関しては「聖なる権能」という表現を数回使用しています。

教会の中での平和、一致、積極的な協力体制を作り出す重要なカギはこの権限の行使です。公会議は権能の世俗的な抑えを、聖性に奉仕する意味を込めて、「聖なる権能」と表現したわけでは

(2) 構成員の任務の違いは同じ神の子の身分を変えるものではない

信者一人ひとりのアイデンティティは神の子であるということと、この存在は任務によって分離されることではなく、同じ対等な関係と区別を保持しながら、独自の使命を果たしていくわけでは

違った役割があっても決して互いに分離していくのではなく、かえって一致を求め、唯一の教会を造り上げるのです。相互の区別を持ちながら教会を造り上げ

ているということです。

(3) 秘跡は教会においてその任務と生き方の多様性を生む

秘跡によって主から与えられる主要な賜物について言えば、洗礼の秘跡は父である神の子とし、信仰生活を営むための源泉である聖霊を与えます。

聖信の秘跡は聖霊を与え、キリストの証人となります。

聖体の秘跡はキリストの一致をもたらす、キリストとの奉獻の道を歩ませま

ゆるしの秘跡は洗礼以後

の多様性を支えます。

教会はみ言葉と秘跡、宣教と証によってキリストの救いを継承するイエスのしるしです。秘跡を土台として表れる任務は格差、差別には全く縁がなく、皆等しく神のしもべとして奉仕するための恵みを与えるので

(4) 任務を遂行するにあたっての福音的霊性

使徒パウロの言葉を味わいましょう。

「主に結ばれて囚人となつてゐるわたしはあなたがたに勧めます。神から招かれたのですから、その招き

カトリック教会の多様性を生きる

とくにご信徒と聖職位階とのかかわりの中で④

鹿兒島教区司祭 永山 幸弘

犯した罪を赦し、人はこれにより神の哀れみを受けま

す。病者の塗油の秘跡は、心身の病気をいやし、その苦しみに耐える力を与えます。

叙階の秘跡は教会の聖職位階、つまり司教、司祭、助祭を作り、それぞれ固有の任務を与えます。

婚姻(結婚)の秘跡は司式者の前で、当事者自身が夫婦として生涯の愛と忠実を誓うもので、そのための恵みを与えます。

このように神は秘跡を通して信者に教会における存在の意味と多様な任務を与えます。

秘跡は教会の任務の多様な源泉であり、また各人の信仰生活を支え、またそ

ストの満ちあふれる豊かさになるまで成長するので

「教会憲章に引用されている聖アウグスティヌスの美しい言葉を紹介します。

「あなたがたのために受けた職は、わたしに恐れを抱かせますが、あなたがた

とともにもつてゐる身分は、わたしを慰めてくれます。事実、わたしはあなたがたのために司教ですが、

あなたがたとともにキリスト者です。司教であることは受けた任務の職名であり、キリスト者であること

は、恵みによる名前です。前者は危険であり、後者は救いをもたらします」(教32)

共通祭司職との関係です。その説明として教会憲章の本文を引用します。

「信者の共通祭司職と、役割としての、あるいは位階的祭司職とは、段階においてだけでなく、本質においても異なるものであるが、相互に秩序づけられ、それぞれ独自の方法で、キ

リストの唯一の祭司職に参与している。役割としての祭司は、自分に与えられた聖なる権能をもって祭司的な民を養育して、統治し、キリストと一体になって聖

体のいけにえを執り行い、それを民全体の名において捧げる。信者は、自分が持つ王的祭司職によって聖体の奉獻に参加し、また諸秘跡を受けることにより、祈

りと感謝の行為により、聖なる生活によるあかし、自己放棄と行動的な愛の実践をもつて、この祭司職を行

使する」(教10)。

このように共通祭司職と位階的祭司職の関係は相互依存であり、このような関係性の理由は、いずれもキリストの唯一の祭司職に参与するものであるということ

です。

③ 信徒の祭司職及び位階に属する人の祭司職はそれぞれ独自の目的と使命を持ち、区別されています。任務はその目的によって本質的な区別が生まれてきます。区別と違いがもたらすお互いが必要とし、キリストの唯一の祭司職を実現しているのです。

概略的には信徒は社会の中で世の光、地の塩として、特に信徒でなければできないような分野において、復活の証人として生きることによってその本質があら

わかると、位階に属する人は信徒に奉仕します。つまり、彼ら

は信徒が自分の救いを得ると共に、社会で言葉と証に

よって宣教するために、知的にあるいは体験的に養成し、霊性を高めていくために奉仕するのです。

④ 信徒は聖職位階に対して、聖職位階は信徒に対して、それぞれ権利と義務を持つています。

信者は教会の霊的善、特に神のこぼれと秘跡の豊かな助けを受ける権利を持ち、また牧者に自分の必要と望みを兄弟として自由と信頼をもって表明すべきです。信徒はまた自分の知識と能力に応じて自分の意見を述べ、自由と権利を持つていますが、このような場合には教会がそのために制

定し、留意した機関を通して行われなければなりません。

聖職位階は信徒の教会における彼らの自由と尊厳と責任を認め、これを向上させなければならず、また信徒の賢明な助言を生かし、信頼をもって任務を彼らに委ね、彼らの自由を残しながら自発的に動くように激

励しなければなりません(教37参照)。

① 神の民である教会が多様な楽器が奏でるシンフォニーのような場になれ

ばと願っています。教会を構成する任務と役割の多様性、個人、有志の集団、地方の教会(集い)などの豊

かさやそれぞれ多様な楽器を響かせられたら素晴らしいシンフォニーが生まれることでしょう。

信者はすべて神の子としてのかけがえのない尊厳を持ち、神の愛において愛されるべき存在だからです。

② 最後に、パウロの「愛の賛歌」の御言葉を挙げて終わります。

「愛は忍耐強い。愛は情け深い。ねたまない。愛は自慢せず、高ぶらない。礼を失せず、自分の利益を求めず、恨みを抱かない。不義を喜ばず、真実を喜ぶ。」(1コリ13:4)

持った奉仕者になりなさい、という言葉にいつも立ち帰って務めを果たしていきたい」と抱負を語った。

久山神学生が祭壇奉仕者に



久山神学生が祭壇奉仕者に

久山神学生が祭壇奉仕者に

サンカルロス大神学院(フィリピン)で学

び、司祭職を目指して

いる教区神学生・久山

元太郎さんは10月22日

(土)、現地祭壇奉

仕者の選任を受けた。

久山さんは「司式し

てくださったバカニ司

教の人々を愛する心を

持った奉仕者になりな

さい、という言葉にいつも

立ち帰って務めを果たし

ていきたい」と抱負を語

った。

持った奉仕者になりな

青年・中高生・小学生のための 救しの秘跡(クリスマス準備) ご案内

と き: 12月17日(土) 午後5時~7時
場 所: 鴨池教会聖堂
聴 罪 司 祭: ビアンネ神父(青年会担当)、貴島神父
※ 救しの恵みに与って清い心をつき添い、イエス様にささげよう。付き添いの方もどうぞ!

子どもへのメッセージを学ぶ

鈴木神父を講師にカトリック教師の会

10月30日(日)午後、教区本部を主会場にオンラインも使って、カトリック教師の会が開催された。今回の集いには、現在は聖心教会主任司祭で、教員として働いた経験を持つ鈴木康由神父が講師として招かれた。



鈴木神父を語る熱い思いを教育への

鈴木神父は1時間ほどの講話の中で、カトリック信者である教師が児童・生徒に伝えて欲しいことを経験談をもとに分かりやすく話された。

また子どもたちにとって家庭を含む教育の場が世界の半分にあたること、学校、家庭で子どもたちは自分の存在が認められないならとても大きな傷を負ってしまう。この世は子どもたちを含めて「神のよいもの」で満たされていくことを理解し、先生たちには子どもたちが愛されている存在であることが認識できるように全力を尽くして欲しい、とメッセージを送った。

鈴木神父の講話のあとは、参加者で分かち合いの時間が持たれた。

死者のために祈る

死者の月に入った11月6日(日)、毎年恒例の「死者のためのミサ」が鹿児島市のカトリック唐湊墓地でささげられた。この日は好天に恵まれたこともあって70人余りの信者が集い、眠りにについている家族や知人が1日も早く神のみもとに行けるよう祈りをささげた。

午後2時から始まったこの日のミサは、中野司教と5人の教区司祭で司式された。



た。福音朗読後に説教した中野司教は人間を形作る細胞が毎日、死にまた再生されることから、「人間は、生きていく間もこのようなレベルでは死と復活を繰り返している。神の愛を知っている私たちは、頑なな心を聖霊の働きで柔らかくし、日々生まれ変わり、成長していこう」とメッセージを送った。

またこの日のミサでは、増設工事が終わった納骨堂が献香と聖水の撒布で祝福されたほか、参列者が一人ひとりが司祭墓地に線香を供え、教区のために尽くしてくれた司教や司祭たちの永遠の安息を祈った。

+KABAYAN SEKSYON+

Isang Panginoon, Isang Pananampalataya, Isang Binyag

Makikita sa mga sulat at mga gawain ni Apostol Pablo ang matindi niyang malasakit tungo sa pananatiling nagkakaisa ang Simbahan, ang Katawan ni Kristo. Hinikayat niya ang mga taga-Efeso (4:3): "Pagsu makitan ninyong mapanatili ang pagkakaisang mula sa Espiritu, sa pamamagitan ng buklod ng kapayapaan."

Matatagpuan sa Christifidelis Laici ang katulad na pagpapahalaga para sa pagkakaisa ng Simbahan. Sa dokumentong ito, nanghihikayat ang Papa sa laiko at malinaw niyang tinukoy ang iba't ibang yaman na dinadala ng laiko sa Simbahan.

Kaya't hindi dapat tingnan ang misyon ng laiko na mababang uri kung ihahambing sa orden ng pagkapari.

Walang duda na ang mga biyayang ibinabahagi ng mga laiko ay ganap na mahalaga sa buhay, pagyabong ng espirituwalidad ng Bayan ng Diyos.

Binigyang diin ni Juan Pablo II sa Christifidelis Laici na ang pagkakaisa sa Simbahan ay "magkasabay na mailalarawan sa kanyang pagkakaiba at pagkakagpo-Tagpo ng mga bokasyon at estado sa buhay, ng mga gawain, mga biyaya ng Espiritu Santo at mga tungkulin."

Sadya ngang ang Espiritu Santo "ang tuwinang buhay na nagpapakilos sa pagkakaiba at pagkakaisa sa Simbahan.

Bawat isa ay mayroon katungkulan sa Simbahan, dahil iisa ang tinanggap natin pananampalataya at misyon na ibinigay dahil sa ating tinanggap na binyag.

Nagiging matatag ang Simbahan kung ang lahat ng mga kapatiran sa pananampalatayang Kristiyano Katoliko ay mayroon talagang diwa ng pakikiisa at nakiisa sa misyon.

LAIKO, SIMBAHAN AT MISYON
(Fr. Dino Orolfo)

《康由神父の聖書教室》57

イエス様と律法

イエス様は「わたしが来たのは律法や預言者を廃止するためだ、と思ってはならない。廃止するためではなく、完成するためである」と言われました(マタイ5・17)。

ことであると言えます。つまり書かれた律法や口伝の律法では十分ではないという事です。だからこそ今まで知られることがなかった律法や掟がイエス様によって明らかになりました。

民を苦しめていることも少なからずありました。貧しい者や病気の者、そして不遇な者が罪人として蔑まれていたのです。

それは神様が望まれることとを糾弾していたので(マタイ15・2, 3, 6)。

神様の憐れみとは「迷い出た羊」のたとえでイエス様が語られているように「これらの小さな者が一人でも滅びることは、あなたがあたの天の父の御心ではない」ということです(マタイ18・14)。

この言葉もマタイにしか見られません。こうしたことから福音記者マタイは律法によって人を断罪することは神様のみ旨ではないことを訴えようとしていると考えられます。

御許にあり、明らかにされていかなかった真の律法が福音として啓示されたのです。これこそが神様の本当の御心を知り、理解し、そして悟る術(すべ)です。「完成するため」と訳された言葉は原語には「満たす」という意味もあります。

神様はこの地上を自分達の愛と憐れみを悟る者で満たすためにイエス様を遣わされたのです。

会と催し 12月

- 3日(土) 日本宣教の保護者聖フランシスコ・ザビエル司祭
- 4日(日) 中野裕明司教霊名(聖ザビエル)
- 5日(月) 丸野六雄神父霊名(聖ザビエル)
- 6日(火) 小川靖忠神父叙階記念(1972年)
- 7日(水) 宣教地召命促進の日(献金)
- 8日(木) 貴島丈弥神父叙階記念(2015年)
- 9日(金) みことばを祈る集い・ザビエル教会・10時
- 10日(土) ヴィンデンマン神父命日(2006年)
- 11日(日) 無原罪の聖マリア
- 12日(月) 糸永真一司教命日(2016年)
- 13日(火) 待降節第3主日
- 14日(水) 待降節第4主日
- 15日(木) カトリック教師の会・教区本部・15時
- 16日(金) 中野アカデミー・教区本部・19時
- 17日(土) 木陰実神父命日(2019年)
- 18日(日) 待降節第4主日
- 19日(月) 有馬信茂神父命日(2007年)
- 20日(火) 中野アカデミー・教区本部・19時
- 21日(水) 松永正男神父叙階記念(1969年)
- 22日(木) 主の降誕
- 23日(金) オリブの会及び共にこの道・教区本部・14時
- 24日(土) 聖ステファノ殉教者
- 25日(日) 聖ヨハネ使徒福音記者
- 26日(月) 寝占教之神父、末吉卓也神父、川口茂助祭霊名
- 27日(火) 幼子殉教者
- 28日(水) 教区本部仕事納め(仕事始めは1月5日)
- 29日(木) 霧島彬神父叙階記念(2018年)
- 30日(金) マルケット神父命日(2020年)

【司教日程】

1日 常任司教委員会(東京)、3日 ザビエルミサ、5-7日 臨時司教総会(東京)、14日 愛の聖母園及び中野アカデミー、16日 大口明光学園、21日 中野アカデミー

【祈祷の使徒会】

日本の教会 非営利団体のボランティア 苦難の中にある子どもたち

教区カトリック教師の会 12月集会のご案内

日時: 12月11日(日) 15:00~16:30
 場所: 鹿児島教区本部2F 会議室 (+オンライン)
 対象: 教区内のカトリック信者の教職、およびカトリックの職員、おおよびカトリックの神に共鳴する教職員
 講師: 鈴木康由神父(聖心教会)
 テーマ: 「正統と異端の分水嶺—ミサは命ある者の希望の先取り—」
 内容: 講話(50分程度)と懇談
 申込: QRコードのフォームから12月10日(土)までに。初めての方は勤務校もお知らせください。その他お問い合わせは kago.cath.kyoushi@gmail.com (担当・霧島彬神父) まで。



ウクライナのための 再度の送金に感謝

レデンプトール宣教修道女会
総長 Sr.テオドラ

私は、ウクライナ出身ですが、仲間のシスターたちによって、このレデンプトール宣教修道女会という共同体の総長として選出されました。

ウクライナは、戦争が始まって以来、私たちにとても困難な時期に、大きな信仰と連帯の中で皆様からの励ましを何度も何度も経験することができました。皆様の連帯、祈り、支援に大変感謝しております。

人々は、レデンプトール会の神父と私たちの存在を非常に高く評価しています。多くの人が私たちの教会に安らぎを求めて、礼拝に来たり、諸サークルや、その他の会合に参加したりしています。

「ウクライナ」支援募金 教区では、レデンプトール宣教修道女会とカノッサ修道女会を通してウクライナ支援することになりました。郵便振替は下記の通り。
郵便振替：02030-2-8359
加入者名：カトリック鹿児島司教区
*通信欄に「ウクライナ」と明記の事

子どもたちの思いを祈りにまとめる

ロザリオの月に百合幼稚園でマリア祭

10月はロザリオの月。ロザリオをくると心が落ちつきホッとします。

「子どもたちにもマリア様をもっと身近に感じてほしい」そんな思いからささやかなマリア祭を始めて4年が過ぎました。毎年思考錯誤しながら行ってきましたが、「これでいいのかなあ?」他の園のマリア祭はとても豪華そうで、すばらしいものを見て、何か足りないものを感じていたからです。

来年はもう少し考えてみよう。そんな思いに、園長先生はいつも「一歩、一歩です」と励ましてくださいました。

そして、今年も10月を迎えどんなマリア祭にしようかと考えていました。ある日の朝の御ミサで郡山司教様が「ひとり、ひとりそれぞれに使命があります」と話されました。その前は覚えていませんが、なぜか、その言葉が心に残り「私の使命って何だろ

う?」と考えること数日。様々なことが頭を駆けめぐり、祈っていました。そして、ある日、マリア祭に足りないものはこの「祈り」だと思えたのです。

その日の朝礼で、「今年のマリア祭のテーマは祈りを中心にしたいので、1人でも2人でもいい、だから子どもたちの祈りを聞いて欲しい」と話しました。数日後、各担任が子どもたちのお祈りを持ってきました。「見てください、子



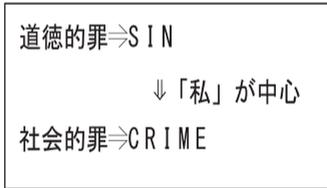
要理

赦しの秘跡で罪を告白したことはあります。罪は自分が犯すのですからその原因は自分の中にあります。

罪ってなんでしようか?

もつと深く罪を知るために英語で考えてみましょう!
道徳上の罪は「SIN」、犯罪は「CRIME」です。この二つの中心にあるのは「I」です。つまり自分が中心となつたときに罪を犯してしまふので

す。思い起こしてみれば自分が正しいと思うから喧嘩になる、相手のことを考えないから意地悪になる、人を認めないから悪口を言ってしまう、自分と合わないから仲間外れにしてしまうといったところでしょう。だから心の中心には「I」という「私」ではなく、「LOVE」という「愛」を



据えることに私たちの信仰があるのです。では人間が犯しうる最大の罪って何だと思えますか? 人を殺すこと、裏切ること、騙すこと、いろいろと思いつくかと思いますが、しかしそれらは罪の本質ではありません。

人間が最もしてはならないこととは自分を愛してくる人のその愛に反することです。自分が愛されていることを知っているのなら愛してくる人を悲しませることはできないはず。みなさんもご両親が項垂れてる姿を見たくはないと思いませんか?

とはいうものの日常の中でお父さんやお母さんをガツカリさせずに過ごすことはなかなか難しいもの。しかし愛されている者は赦される者でもあります。改めるのに遅すぎることはありません。自分のしてきたことが周りにどのような影響を与えたのかを反省し、これからはどのようなようにすればいいのかを考えればいいのです。過ちをそのままにしておけば過ちとして残ります。しかしそれを生かすのなら良い経験になるのです!

どもたちの祈りです」とここにこしながら見せてくれました。

一枚一枚、目を通してとても感動しました。何よりも、先生たちが子どもに寄り添い「祈り」の意味がしっかり伝えられていることが分かったからです。心が熱くなり涙をおさえることができませんでした。

生花は時間との勝負でした。それでも、2日かわわしいブーケを40個、どうにか仕上げる事ができました。そうして迎えたマリア祭当日、子どもの顔も職員

マリア祭の動画を初めて見て、また持ち帰ったブーケやシオリを目にした保護者の皆様からは、「子どもたちの成長を喜び、感動した」とたくさんお手紙をいただきました。



大切な子どもの祈りはマリア様の御絵の裏に「わたしのいのり」とタイトルをつけ、ラミネートをかけてリボンをつけたらステキなシオリになりました。さて、次はお捧げの花をどうするかです。

小さな手をしっかりと握り合せて一生懸命祈る子どもたちの姿を見ながら、「マリア祭をやった良かった」との思いに満たされ、やっとなり、嬉しそうに話していました。祈りのシオリもブーケもお家に持ち帰りました。

でも一歩一歩、子どもたちに寄り添い、一生懸命頑張っていれば、こんなに喜び合える日がくることを改めて感じる事ができて感謝でした。

(文責 松本五十鈴)